

HSK

昭和48年 1月13日

第 3種郵便物許可

HSK 通巻 275 号

あすなろ

発行 平成 7年 2月10日

毎月10日発行 あすなろ会

発行 北海道身体障害者団体

定期刊行物協会

あすなろ会 72号



新年のご挨拶

会長 国分 正利

全道役員研修会に参加して

斉藤千鶴子

お正月飾り販売お礼

国会請願の署名と募金 お礼とお願い

新しい年になって初めての、あすなろ会報の発行ですので国分会長からもう2月なかばを過ぎましたが、ご挨拶をいただきました。

新年のご挨拶

会長 国分 正利

皆様明けましておめでとうございます。

あすなろ会の会員は色々の障害や病気の型がおられますので、それぞれの病気の回復に努めておられますが、難病の為になかなか思うようには成らないご苦労をしている事と思います。

橋本病、多発性硬化症の会が独立して、あすなろ会は会員が減少し、実務やって頂く方が少なく、会の活動にも支障があります。それでも役員、事務局とも努力し会の運営を努めています。

事務あすなろ会会員の一層のご協力をお願いいたします。

今年の事業計画としては特に大きなものは有りませんが、通常の事業が有りますで、個々に、より充実したものに努めます。

難病連の事業としては無年金者の解消、他府県の難病センター建設、医療保険の問題、年金問題等々多数の事項が有りますが、出来るかぎりの運動に参加協力してまいります。

今年もそれぞれに元気で活動されますように祈念いたし、皆様と会える日を楽しみにしています。



今年は色々なところが、お正月飾りを販売していますので、あすなろ会の売上が心配でしたが、会員の皆様の協力で実績を上げる事が出来ました。本当に有り難うございます。

大野美代子 様 小野 三郎 様

杉山 和子 様 斉藤千鶴子 様

斉藤 一 様 深沢 幸子 様

「総合的難病対策の

早期確率を要請する請願署名」

坂本 信行 橋本より子 田代 文幸

間平 明 堀川百合子 中島 和彦

松田 英子 山川 滋弥 上島 仁子

松本 ウメ 鈴木 伸枝 奥田鬼代子

深沢 幸子 藤田安江子 渡辺 陽子

佐藤 時重 斉藤千鶴子 国分 正利

募金もして頂き有り難うございます

94年度全道役員研修会（7年1月21日、22日）に国分会長、深沢幸子、齊藤千鶴子があすなろ会から参加しました。

研修の報告を齊藤千鶴子さんにお願ひしました。

全道役員研修会に参加して

齊藤 千鶴子

1月21日22日、2日間難病センターで研修会が開催され100名以上の参加があり私自身、大変勉強に成りました。

伊藤事務局長の基調講演を聞き、患者運動が、福祉行政に大きく影響を与えている事が良くわかりました。

グループディスカッションでは、各部会の患者会の運営などについて、次のような意見が出されました。

役員のなり手が居ないので、同じ人が何年もやっている、他の人にもやってもらいたい。

会費納入については、1年～3年会費を納入しないと退会に成ることを文章で出して、未納の人は退会にしているところもあります。

会費未納でも会報は送っているところも有ります。しかし会費を納入して、始めて会員になるので納入してほしい。

財政については、どこの会でも苦しく、難病連や各部会が安定した活動をする為にも、何らかの財源確保を考えなければならない。

例えばバザーを年2回するとか、支部でもバザーをするなど。

難病連は、これから何をすれば良いかについては、患者の声を社会へ知らせる役目があると意見が出てました。

最後に十勝支部の江口氏の言葉が、とても心に残っているので書きます。

この会の活動が社会を動かしていると思ったら、大変だけれども続けていきたい。

「なんれんNo.62」より

個人参加難病患者の会「あすなる会」で 大動脈炎症候群の医療講演会



札幌山の上病院リウマチ・膠原病センター長の佐川昭先生

個人参加難病患者の会「あすなる会」では一月五日、道難病連と共に、札幌山の上病院リウマチ膠原病センター長の佐川昭先生による「大動脈炎症候群と療養生活」の医

はこれまでに、パーキンソン病、バ
ージャー病、後縦靭帯骨化症、橋本
病、潰瘍性大腸炎、クローン病、多
発性硬化症などの会が次々と分離独
立をしています。

十数年ぶりに開かれた大動脈炎症
候群（脈なし症、高安病とも言われ
ます）の講演会も、少人数ながら、
充実した内容でした。

療講演会を開催しました。

あすなる会は疾病別の患者会のな
い患者・家族で構成しているもので
昭和四八年（一九七三年）に全国に
先がけて結成されました。同会から

身だしなみで初めての。

交流レクリエーション

美唄支部初めての交流レクリエー
ションを六月一六日（日）総合福祉セン
ターで開きました。当日の参加者は
三二名となりました。

欠席ハガキから交流会への参加を
楽しみに待ちながら、身体の不調や
検査入院等のため、欠席に至る無念
さがハガキのひとつ言葉にびっしり書
きこまれ、合せて今後も皆さんの輪
の中に包んでほしいとの一訴えがひ
とりほっちの患者の皆さんの患者会
に求める切実な心をうかがうことが
できました。

いよいよその日がやってきて、最

初に友情出演として琴愛好会の方三
名の奏でる琴のひびきは、交流レク
に事をかざるものでした。

ジャンケンゲーム対抗勝抜戦、カ
ラオケによるのど自慢へと進むにつ
れて、歌う人、聴く人、日頃病いを
友として明け暮れているひとり、ひ
とりにとって楽しい一刻でした。

当日、ボランティアとして参加し
た婦人団体の人びとは「難病という
ハンディを背負っているのに皆さん
明るくふるまっておられるのに感心
しました」と語っておりました。

参加者全員への福引品にしてもち
らって喜ばれることに留意し、
少ない予算の中にも活用用品が用
意され、注目されました。

そしてこのような楽しい憩い
の場、地域住民との交流の場を
持つことができたのも家族の
方々のご協力はもちろん、地元
美唄社協のご援助、ご協力、協
力者による会場設営などのご支
援は大なるものであります。

（支部長 東海林嗣男）



春の

チャリティーバザー

とき 3月4日(土) 13時～16時

5日(日) 10時～14時

ところ

北海道難病センター

☎ 512-3233



後記

今年度の最後のあすなろ会報です。

今年は大動脈炎症候群の医療講演会をしました。どのような医療講演会を希望しているか、お知らせ下さい。

編集人 個人参加難病患者の会 昭和48年1月13日第3種郵便物認可
札幌市中央区南4条西10丁目 難病センター内(512-3233) HSK 275
発行人 北海道身体障害者団体定期刊行物協会 細川久美子
あすなろ72号(毎月1回 10日発行)1部100円(会員は会費に含まれる)